

第4章 施設計画

ク)働きやすい職場環境の整備 …効率的で効果的な医療が遂行できる働きやすい職場環境の形成（スタッフ動線に配慮した諸室配置、会議室や図書室、ワークライフバランスに配慮した休憩室や院内保育室の整備など）

ケ)建設・維持管理コストを抑え経済性に配慮した施設…将来的な経営負担を軽減し持続的な病院経営を実現するため低コストかつ品質の高い施設づくりに努め、ライフサイクルコストの縮減にも配慮（メンテナンスが行いやすい構造、材料の採用、華美な装飾等は避け、規格品や汎用品を積極的に採用するなど）

医療機器と医療情報システム整備の基本的な考え方

- ・医療機器は、現在所有する機器の使用可能期間や新病院における診療内容等を十分検討し、効率的に調達
- ・費用対効果を踏まえ、電子カルテシステムの導入とその時期について検討
- ・待ち時間短縮と待ち時間のストレス緩和を図るため、予約・受付・会計などを一元化した病院情報システム導入を検討



部門別の考え方

【新病院整備にあたっての部門ごとの基本的な考え方】

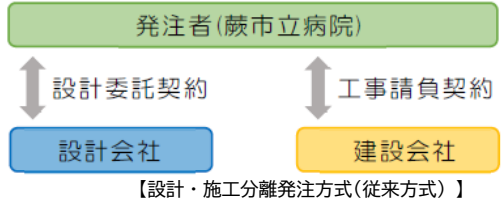
- ①病棟部門…車いす等でも利用可能なトイレの拡充、一定数の個室の確保、産科と婦人科を区分したゾーニング、感染症発生時のゾーニングを考慮した病室配置、つまずき・転倒を防ぐための構造や建材など
- ②外来部門(救急含む)…ゆとりある待合、再来患者の予約制導入による混雑緩和、効率的な動線、フレキシブルな利用を可能とする診察室、近隣への影響に配慮した救急車の進入路の考慮など
- ③手術部門…用途に応じた複数の規模での整備、清浄度を高レベルで維持するための設備と動線など
- ④薬剤部門…外来調剤は院外処方とすることを基本に検討、災害時のため薬剤等の備蓄が可能な空間の確保など
- ⑤臨床検査部門、⑥放射線部門、⑦リハビリ部門…必要な部門からのアクセスが容易な配置計画など
- ⑧人工透析部門…現状や今後の患者動向を分析し、必要なベッド数を見込んだ部屋面積、必要機材の整備など
- ⑨健診部門…一般患者と健診受診者の動線が可能な限り交錯しない配慮など
- ⑩栄養部門…院内調理を基本として検討、衛生への配慮など
- ⑪管理部門…会議室、図書室、更衣室や当直室、休憩スペースの整備など



第5章 事業計画

事業方式の検討

設計や工事に係る事業方式は、「設計・施工分離発注方式（従来方式）」、「D B方式」、「E C I方式」、「P F I方式」などがありますが、医療施設分野の実績が多い設計会社や建設会社に対し行ったヒアリング等の結果を踏まえ、「**従来方式**」を採用することとします。



事業スケジュールと概算事業費

事業スケジュールと概算事業費は表のとおりです(ただしいずれも、労働者不足や建設資材等の物価高騰などの今後の社会情勢や、設計内容等により変動することがあります)。

項 目	概算事業費（税込み）
新病院に係る設計及び監理費	約 3.8 億円
新病院に係る建設工事費	約 63.4 億円
合 計	約 67.2 億円

概算事業費には、什器・備品や医療機器、医療情報システム等は含まれていません

	2025 年度 (令和 7 年度)	2026 年度 (令和 8 年度)	2027 年度 (令和 9 年度)	2028 年度 (令和 10 年度)	2029 年度 (令和 11 年度)
基本設計					
実施設計					
建設工事					★ 開院

概要版

蕨市立病院整備基本構想・基本計画（案）

資料 3

第 1 章

経緯・背景

市立病院（1970年建設・築54年）

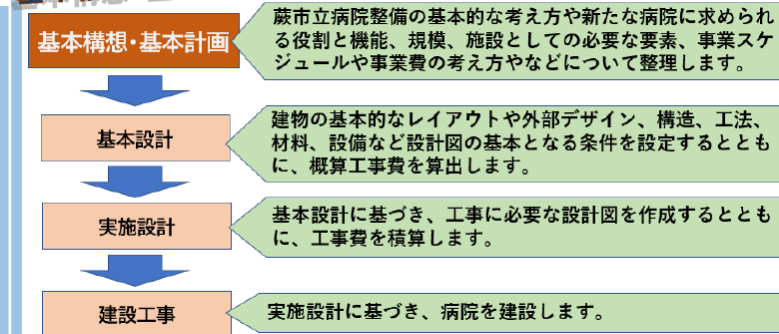
：耐震化・老朽化対策等の必要性

⇒検討委員会（2019年度～）

「現在の施設の耐震化は難しい」（2023年1月報告）
※これを受け、市は建て替えを行うという方針を決定
「西公民館・松原会館を含む一体的な敷地の活用が望ましい」（2023年11月報告）
※これを受け、市立病院では審議会を設置するとともに、市内5地区で説明会を開催し市民の意見を聞く

⇒こうした取り組みを経て、市として、「**市立病院の建替えは移転建替えとし、移転候補地は西公民館・松原会館を含む一体的な敷地とする**」という方針を決定（2024年3月）

基本構想・基本計画の位置付け



基本構想・基本計画について

第2章 当院を取り巻く環境

医療政策の動向など(国・県)

【国】

・再編統合の議論が特に必要な424医療機関を公表（2019年）

⇒その後、コロナ禍を経て、「**地域医療構想の推進の取組は、病床の削減や統廃合ありきではなく、各都道府県が地域の実情を踏まえ、主体的に取組を進めるもの**」と表明（2021年）

・地域包括ケアシステムの構築を重視し、診療報酬改定では「**地域包括ケア病棟(病床)**」を新設（2014年）

【県】

・**埼玉県地域医療構想(2016年)**：県内10の二次保健医療圏ごとに病院機能を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つに分けて、将来推計人口から地域ごとに医療ニーズを予測し、それを基に将来必要となる病床数の目安を病院機能ごとに推計

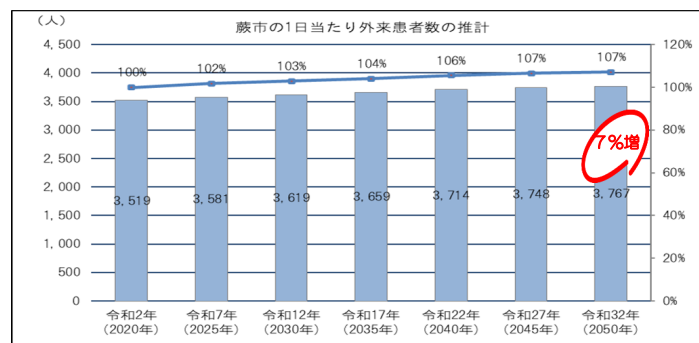
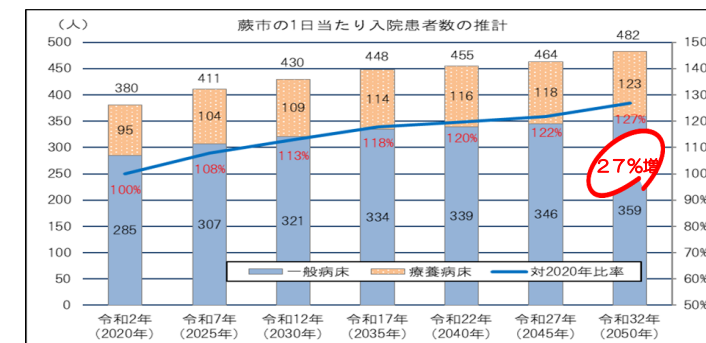
蕨市の二次保健医療圏は、「南部保健医療圏」

・**南部保健医療圏(蕨市、川口市、戸田市)**：当圏域における必要病床数の見込みとそれに対する2022年度時点の実状は右表のとおりであり、特に回復期で顕著な不足が明らかです。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2025年 必要病床数 (A)	609	1,922	1,623	871		5,025
2022年度 病床機能報告(B)	257	2,888	500	721	63	4,429
2022年度 定量基準分析結果(C)	527	1,754	1,329	756	63	4,429
比較 (B)－(A)	-352	966	-1,123	-150	—	-596
比較 (C)－(A)	-82	-168	-294	-115	—	-596

将来の医療需要の変化

蕨市における1日当たり入院及び外来患者数は、いずれも今後増加していくことが推計されます。



市民アンケート結果

新しい病院に求めるもの

	(件数)	(選択率)
市民がいつでも気軽に安心して利用できる病院	596	60.4%
きちんと病状の説明をしてくれ、患者が納得のいく医療が受けられる病院	582	59.0%
災害時においても医療提供が停止しない病院	455	46.1%
大学病院など高度な医療を提供する医療機関との連携がある病院	404	40.9%
クリニックや医院と連携した地域の中核的な病院	293	29.7%
介護施設等との連携で、高齢者の安心の暮らしを支える病院	173	17.5%
新型コロナなど、新興感染症に対応した病院	158	16.0%
独立採算制を重視して、効率的な運営ができる病院	54	5.5%
その他	26	2.6%

新しい病院が充実すべき医療サービス

	(件数)	(選択率)
救急医療	682	69.1%
午後診療	490	49.6%
健診(人間ドック、がん検診等)	316	32.0%
気軽に相談できる窓口機能	315	31.9%
高齢者医療・在宅医療	308	31.2%
小児医療・小児救急	203	20.6%
専門分野の外来診療	104	10.5%
周産期医療(分娩)	95	9.6%
その他	31	3.1%

第3章 新病院整備の基本的な考え方

新病院整備の基本理念

- ・市民の健康の維持増進を第一とし、地域住民に愛される病院となることを目指します。
- ・患者及び家族の皆様が満足できるよう、安全で質の高い医療サービスの提供を目指します。

新病院整備に当たっての基本理念は、2019年策定の「蕨市立病院将来構想」、2024年策定の「蕨市立病院経営強化プラン」でも掲げている蕨市立病院の「基本理念」です。

新病院にあっても、この基本的な理念が変わるものではないことから、「市立病院建設基本構想・基本計画」における基本理念もこの理念を踏襲するものとします。

新病院整備の基本方針

- ①急性期医療の継続…急性期病院としての機能を継続、市内唯一の二次救急指定病院としての機能を維持
- ②地域医療連携の充実…高度急性期等からの受入、回復期・慢性期の医療機関・施設や在宅への橋渡し
- ③地域包括ケアへの対応…回復期機能を有する「地域包括ケア病床」を新たに確保
- ④周産期医療、小児医療の提供…市内唯一の分娩機能をはじめとした周産期医療・小児医療の提供を継続
- ⑤市民の健康の維持増進への対応…「成人健診センター」機能を新病院内に設置
- ⑥外来診療環境の充実…紹介状を必要としない地域の身近なかかりつけ医的な機能を継続、外来待合スペースの確保や自動再来受付や待ち時間対策の検討など、外来診療環境を充実
- ⑦入院環境の充実…入院患者のQOL（Quality of life／クオリティ オブ ライフ：生活の質）の向上を図るため、ゆとりある病床面積の確保や個室数の拡充など、入院環境を充実
- ⑧働きやすい職場環境の推進…効率的効果的な医療が遂行できる環境、働きやすい職場環境を形成



新病院が担うべき役割と診療体制

【5疾病6事業に対する対応】

医療法に示す5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、6事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療、新興感染症対応）に対しては、現状を踏まえ引き続き当院の役割を果たしていく

【診療科】

現状「内科」「小児科」「外科」「整形外科」「産婦人科」「眼科」「耳鼻咽喉科」の7科

※このほか曜日により、「皮膚科」「呼吸器内科」「消化器内科」「糖尿病科」「泌尿器科」「乳腺外科」を開設

→診療科については現状を基本とし、今後の患者ニーズ等に応じ、将来的に新たな診療科の開設にも対応できるよう、柔軟な対応が可能な診療スペースを検討

【必要病床数】

地域の医療ニーズの増加や、地域包括ケア病床の設置等により一患者当たりの入院日数の増加も見込まれることから、病床数の大幅なダウンサイジングは適切ではなく、**病床数は現状の130床程度をベースに検討**（ただし、一床当たり面積の拡大や、病床の個室化、外来待合スペースの確保など、様々な要因を踏まえ、具体的に確保できる病床数は設計段階で決定する）



第4章 施設計画

移転候補地について



【移転候補地】

「西公民館・松原会館を含む一体的な敷地」

地積合計	4,540.22㎡
建蔽率	60%+20%（角地緩和等）
容積率	200%



施設の必要規模

新病院の想定床面積…9,000㎡程度

現在の市立病院の床面積：6,865.65㎡（健診センターと検査室を含めた場合+500㎡程度）

同規模病院の平均的な床面積：8,700㎡（健診センターと検査室を含めた場合+500㎡程度）

駐車・駐輪場の規模…平置きを基本としながら現状以上の駐車スペースの確保と、100台程度の駐輪スペースの確保を目指す

※交通アクセスの向上に資する交通手段の充実やシェアサイクルポートの設置場所も検討

※駐車場・駐輪場や建物の敷地上における配置を設計するに当たっては、移転候補地と総合 社会福祉センターとの間にある道路（幅員6.0m）の活用も含めて検討

施設整備の基本的な考え方

ア)バリアフリー、ユニバーサルデザインへの対応…他の公共施設等と比べてもとりわけ重視（十分な幅を確保し段差のない廊下、車いすやオストメイトに対応したトイレ、視認性が高く直感的に伝わる案内表示やピクトグラム、勾配や段差の少ない外構アプローチなど）

イ)プライバシーへの配慮…プライバシーを保護し、安心して治療・健診等を受けられる環境を提供（各病室や外来待合室等のそれぞれで、室の広さや、材質の配慮による外部への音漏れ防止、パーティションやカーテンによる視覚隠蔽、処置中の患者と別の患者が交錯しないような動線設定など）

ウ)災害に強い施設…必要な医療の提供が継続できる災害に強い施設（非常用発電機設備や無停電電源装置の整備、免震構造導入の検討、受変電設備や非常用発電機設備の上層階への配置など）

エ)省エネルギー化…環境負荷の低減に資するとともに、建物のライフサイクルコストを縮減（省エネルギー型の機器の採用、気密性・断熱性が高い建材の活用、再生可能エネルギーの活用など）

オ)近隣環境と景観への配慮…良好な景観形成に資する建物とするとともに近隣の住環境へ配慮、また、救急車や物品搬入出の車両の進入動線などについても近隣への影響をなるべく低減

カ)機能性と利便性の確保…来院者・スタッフの双方にとっての機能性、利便性の確保（必要な機能を踏まえた諸室のスペース確保、機器等の収納スペースや物品の置き場の確保、交錯する複数の動線の整理、処置スペースや作業スペースの確保など）

キ)親しみと安らぎを感じさせる施設…来院される方の不安を軽減できる親しみと安らぎを感じさせる整備（内装などの意匠や、ゆとりある空間整備、採光や緑化の配慮、だれもがくつろげるスペースの確保を検討など）

